



Caritas Kaleidoscope

カリタス女子短期大学

英語・英語圏文化専攻

Vol. 8

Latest News from Caritas Graduates

英語・英語圏文化専攻 教員

北川 宣子

2001年に、この「Kaleidoscope」が歩み出し、いよいよ2年目が終わろうとしています。カリタスの英語・英語圏文化専攻を巣立って、それぞれの道で活躍している卒業生は数千人にもおよびます。その中からここ数年の卒業生を選び、彼女たちが今、何を学び、何に挑戦しているか、その現状を報告してもらいました。

春日 理恵（株式会社住友倉庫）

カリタスを卒業して働き始め、あっという間に9ヶ月が過ぎました。就職活動をしていく上で、勤務先が横浜近辺であり、英語が少しでも生かせればと考えており、先生や友人と相談した結果、私はカリタスの推薦で(株)住友倉庫を受けました。「倉庫なんて何をやるの!？」と、初めはわからないことばかりでしたし、今でも戸惑うことは多々あります。私の所属する海上業務課は、船便での輸入・輸出貨物の手配が主な仕事です。英文の書類やメールを扱うこともしばしばあります。私は英語を専攻したお陰で外資系の船会社へ行く機会を多く与えられ、仕事の幅が広がりました。大学で習ったことや、得意分野については面接の時からアピールしておくとは後々チャンスが巡ってくるかもしれません。職場に慣れた今でも、「まだまだだなあ。」と実感させられます。「商業英語」を勉強しておけば良かったなどと思うことも、今は必要ないと思えることでも、将来何かの役に立つ可能性があります。就職すると時間の使い方がむずかしくなるので、皆さんは学生の間に、勉強でも遊びでも今出来ることを精一杯がんばってください。

松井 彩（清泉女子大学）

清泉女子大学に編入して、もうすぐ1年を終えようとしている。この1年間、まず授業に慣れることが大変であった。短大では英文記事や英文学を訳すことが中心だったが、大学ではこれ以上に、作品を読み、それに対する意見を求められる。当たり前だが、「編入生」ということは通じないので、以前から入っている学生に自分で追いついていかなくてはならない。準備として、英文学科に進む人は、短大で学んだ英文学の他の作品にも目を向けて、自分で本を読んだり、ビデオを観たりしておくといよい。口答で意見を求められることが多いので、日頃からどんな話題についても自分の意見を持つことが大切だと思う。教室での勉強以外に、有意義な社会勉強もすることができた。まず今年の夏休みは、羽田にあるJALのステューデント訓練所の見学、そして品川区役所でインターンシップを経験した。今は就職活動の準備とたくさんのレポートで大忙しだが、たくさんの友だちと共に充実した毎日を送っている。今思えば、カリタスでのフレンドリーな授業は、短大ならではの温かさがあったと思う。カリタスで過ごした日々は私にとって宝物のようなものだ。皆さんも、短大での生活を有意義に過ごして欲しい。

品山 羽夏（College of St. Elizabeth）

After graduating from Caritas in 1999, I worked for two years for JTB in the International Section. However, one of my biggest dreams has always been to study abroad. It has now been almost two years since I left for the U.S.A. to pursue my studies at the College of St. Elizabeth. Needless to say, I have spent two hard years so far. As an international student I did not know anything about America, such as customs, habits, even how to open a bank account. However, thanks to many kind professors, staff, and friends, I can say that I could spend a satisfying time so far.

My two years have basically been spent studying. Not to fall behind American students, who do not have a language issue at all, I have had to study more than three times as hard. On the other hand, I don't want to finish my special experience only studying so now I'm trying to be a bridge between international students and American students. I help new international students with tutoring, and being an orientation leader. I also have other jobs at the Learning Center and International Students Development Office helping the director there.

英米文学の故郷 第8回 ナニートン

英語・英語圏文化専攻 教員

伊藤 知子



ジョージ・エリオット

ジョージ・エリオット(George Eliot, 1819-1880)はイギリスの小説家で、本名をメアリー・アン・エヴァンズ(Mary Ann Evans)といます。イングランド中部、ウォリックシャー(Warwickshire)のナニートン(Nuneaton)で生まれました。彼女の小説、ことに前期の田園小説には自伝的要素が見られ、故郷ウォリックシャーを舞台にしてリアリズムの手法で自然や人々が描かれています。

ナニートンはウォリックシャーの北部に位置していて、初期の小説集『牧師生活の風景』(*Scenes of Clerical Life*, 1858)ではミルビー(Milby)と呼ばれています。エリオットが生まれたアーベリー農場(Arbury Farm)の近くには彼女の父親が土地管理人をしていた邸宅アーベリー・ホール(Arbury Hall)があります。彼女はチルヴァース・コトン教会(Chilvers Coton Church)で洗礼を受けました。生後4ヶ月で近くのグリフ・ハウス(Griff House)に移り、1841年まで約21年間を過ごしました。グリフ・ハウスは現在ホテルになっています。ナニートンを訪れたのは1998年8月でしたが、グリフ・ハウスの辺りには木々が茂り、夏の午後には心地よい木陰を作っていました。ミュージアム・アンド・アート・ギャラリー(Museum and Art Gallery)にはエリオットの居間が再現されていて、ドレスや身の回りの物を展示しています。タウン・センターにはエリオットの銅像があり、その眼差しには読書家で幅広い教養を持っていたという彼女の知性がうかがわれました。



グリフ・ハウス

1841年に父親が引退してから父親が亡くなる1849年までエリオットの一家は隣の州ウェスト・ミッドランズ(West Midlands)の都市コヴェントリー(Coventry)に住みました。『ミドルマーチ』(*Middlemarch*, 1871-72)はイングランド中部の都市ミドルマーチにおける人間模様を描いていますが、そのモデルはコヴェントリーです。様々な人間関係の描写、そして登場人物たちの心理描写の根底にはエリオットが抱いていた人間への共感が見られます。そのような彼女の人間性が、今回選んだ肖像画には描き出されているようです。

子供と英語

英語・英語圏文化専攻 教員

前田 隆子

私はカリタスで「児童英語教育」のゼミを担当していますが、今回は2人のゼミ生に「子供と英語」というテーマで報告してもらいます。大場早織さんには、夏休みのオーストラリアでのChild Day Care Centerでのボランティア活動を、小泉美琴さんにはあざみ祭でのKids' ABC Roomでの児童英語教師の体験を報告してもらいます。

オーストラリアでの生活

英語・英語圏文化専攻2年 大場早織



Child Day Care Centerで食事
中の1歳児たち

私は2002年夏の1ヶ月間、オーストラリアのゴールドコーストのChild Day Care Center(保育園)でボランティアをしました。私が世話したのは1歳児の子どもたちで、彼らはまだ話すことが出来ませんでした。最初はただ一緒に遊んでいるだけでしたが、次第に彼らのしたいことも分かってきました。彼らも先生や私の言うことの半分は理解出来ているようでした。例えば「してはいけないこと」や「しかられていること」、「相手が喜んでいること」などです。彼らとは一緒に、お絵かき、砂遊び、ブロック積み、などもしました。食事や手洗い、おむつ替えやミルクを飲ませるなども手伝いました。年齢的なことから一緒に歌うことが出来なかったのは残念ですが、心が通じたと思える1ヶ月を過ごせました。子どもの偏見なしに物事を見る姿勢は、大人になった今だからこそ見習いたいと思います。

あざみ祭での Kids' ABC Room

今年の Kids' ABC Room では前年度来てくれた小学生を中心に 10 人の子供たちが集まってくれました。1 回のレッスンだったのですがとても楽しく有意義なものになったと思います。

レッスンはまず、体の部位の歌を動きながら歌うことから始まりました。子供たちだけでなく、私たちゼミ生にとっても、この歌で緊張がほぐれていったように思います。次に自分の名前、年齢、住んでいるところ、好きな食べ物の言い方を覚え、一人ずつ発表してもらいました。緊張のあまり泣き出してしまう子もいましたが、みんなとても上手にできました。続いてフルーツ・バスケットをし、みんな大はしゃぎでした。最後に異文化理解の要素を取り入れるということで、英語、フランス語、日本語のオノマトペの比較をしました。まず、英語とフランス語で鶏や豚の鳴き声、ドアをたたく音やくしゃみの音などを聞かせ、日本語でどう言うのかを当ててもらいました。いろいろな答えが出て、子供たちの感性の豊かさに驚かされました。今年はゼミ生が 3 人だったので、はじめはどうなることかと思いましたが、いろいろな方の手伝いもあり、無事に終えることができました。子供たちの笑顔と「楽しかった」の一言がとてもうれしく、機会があればまたやってみたいと思います。

英語・英語圏文化専攻 2 年 小泉美琴



Kids' ABC Room の児童とゼミ生たち

先生が学生だった頃

このコーナーでは、カリタス女子短期大学の先生方がどのような学生時代を送ったのか、学生によるインタビュー形式でお届けします。第 8 回目のゲストは、石塚美佳先生です。インタビュアーは、2 年生の君塚美鈴さんです。



石塚 美佳 先生

Q: 大学では主に何について学んでいらしたのですか？

A: 大学では英米文学科で文学を、卒論はイギリス文学のヴァージニア・ウルフについて研究しました。それと、哲学と心理学が好きだったので、それらの科目も取りました。その後アメリカの大学院で、英語教育学を学びました。大学時代のクラブが ESS で、勉強よりもクラブ活動をしていた記憶の方が鮮明に残っています。クラブは、ESS の中でもディベート(討論)セクションに属していました。

Q: では、ディベートを通して一番学んだことは何ですか？

A: 時事英語です。それとリスニング力が鍛えられました。相手の意見を聞かないと話が始まらないので。

Q: クラブ以外には学生時代には何をしていましたか？

A: 部活動は合宿するからお金がかかるので、いろいろなアルバイトをしました。家庭教師、書店販売員、通信教育の添削、コンピューター事務、日本英語教育協会のサマーセミナーのアシスタントなどです。ファーストフードショップでは夏休みに仕事をし過ぎて、腰を痛めたこと

もありました。それと、ベビーシッターもやりましたね。

Q: 石塚先生といえば演劇がお好きだということですが、どれくらいの頻度で観に行かれるのですか？

A: 平均一週間に一回ぐらいは観に行っています。

Q: 何か好きなジャンルはあるんですか？

A: パレエが一番好きなんですけれど、最近はクラシックのコンサートや演劇、ミュージカルにも足を運んでいます。

Q: これが観たいと決めるポイントは何ですか？

A: 役者と演出家、そして脚本。どれが欠けても良い舞台にはならないと思います。

Q: 最後に学生たちに何かメッセージをお願いします。

A: 自分が大切にしているもの、そしてやりたいことに時間と労力を惜しんではいけないと思います。

Cool Web Site

英語・英語圏文化専攻 教員

前田 隆子

今回紹介するホームページは、外務省(<http://www.mofa.go.jp/>)のもので、国際情勢や日本に関することを英文でも読めるので、英語の勉強になります。また海外旅行に行く人は旅行前に、海外安全ホームページで行き先の危険度をチェックできます。

「外務省」のホームページ <http://www.mofa.go.jp/>

えいがのえいご

英語・英語圏文化専攻 教員

石塚 美佳



今回は「アイ・アム・サム」(2001年 “I am Sam”)から紹介します。この映画は先のアカデミー賞で、7歳児の知能しかない自閉症のサムを演じるショーン・ペンの演技が話題になった作品です。紹介するシーンは、サムの娘ルーシーを実の娘として育てたいと考えていたランディが、サム親子の強い絆を見て思い直し、サムの良き協力者となろうとする場面です。

Randy: I have to apologize to you, Sam, because I was gonna (=going to) tell that judge ... that I could give Lucy the kind of love she never had. But I can't say that, because I'd be lying.

Sam: I hope...I hope...I hope...I hope...I hope you're saying what I think you're saying.
Because I hope you're saying what I think you're saying.

Randy: I am.

Sam: Yeah, okay. Yeah.

Randy: Bye. I'll see you in court tomorrow. Save me a seat, Sam. On your side. Okay?

Sam: Yeah. I'll save you a seat on my side. Yeah.

ランディ: あなたに謝らなくちゃいけないわ、サム、私・・・ルーシーが今まで得たことのないような愛情をこの子に与えられるって、判事さんに言うつもりだったの。でも言えないわ、嘘になるから。

サム: そ・・・それって・・・ぼ・・・ぼくが・・・ぼくが考えていることと同じだといいけど。

きみが言っていることが、ぼくが思っていることと同じだといいんだけど。

ランディ: そうよ。

サム: ああ、よかった。うん。

ランディ: じゃあ、明日法廷で会いましょう。私のために席を取っておいてね、サム。あなたの隣に。いい?

サム: ああ。ぼくの隣に席を取っておくよ。うん。

は先行詞を含む関係代名詞(**what = the thing(s) which**)を使っています。この表現は日常でもかなり使われる表現です。例えば、**I know what you like.** (あなたの好きなものを知っている)とか、**I don't understand what you're saying.** (あなたの言っていることは分からない)などと使います。は直訳すると「あなたの側に、あなたの隣の席に」ということですが、ここでは裁判の検察側、被告側といった意味もあり、ランディはサムの味方になると言っているわけです。**Somebody has to be on my side!** (誰か私に味方してよ!) というように使えます。

この映画は会話のスピードも発音の明瞭さも、英語学習者にとってはちょうど良いものです。泣ける台詞もたくさんありますから、心に潤いの必要な方は是非観てください。おすすめします。

Kaleidoscope 第8号はいかがでしたか? 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2003年1月10日発行

発行責任者: 北川宣子

編集協力&タイトル・ロゴ作成:

東京工科大学メディア学部 渡邊賢悟

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>